

○講座内容

開催日時	講座テーマ	講座内容	受講対象／定員
8月1日(水) 13:00～14:30  受講料：無料	「公民(倫理)」教育による「共生」意識の涵養  講師：箭内 任 人間心理学科教授	高等学校「公民科」の学習指導要領では「平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」ことが目標とされています。その中で、科目「倫理」では「他者と共に生きる主体としての自己の確立」を促進し「良識ある公民として必要な能力と態度」の涵養が目標とされています。文部科学省が作成した解説書などで説明されている内容を理解するには、理論的な背景も十分に踏まえていなければなりません。この講座では、「公民(倫理)」教育における「共生」意識の涵養を、自己、他者、社会という三つを基本とするトリアーテ構造から理解します。	高等学校(公民科[現代社会・倫理])の講師及び若年層の教職員、教職課程履修者／30名
8月1日(水) 15:00～16:30  受講料：無料	身近な題材で経済の動きを説明する(経済学的思考の実践)  講師：高橋 真 現代社会学科教授	小学校社会科、中学校社会科、そして高等学校公民科のそれぞれの教科科目の中に経済を取り扱う学習内容が含まれています。生活場面の中から経済にかかわる題材を使って、その経済学の理論的な説明を行います。人間の生活において経済がいかに身近で、しかも理論的な説明が可能なのかを知ることで、それぞれの授業への応用が可能になると思います。	小学校・中学校・高等学校の講師及び若年層の教職員、教職課程履修者／30名
8月2日(木) 13:00～14:30 15:00～16:30  受講料：無料	アクティブラーニングとしての公民科の授業設計(前半・後半) 講師：太田 健児 人間心理学科教授	アクティブラーニングとしての公民科の授業設計を学びます。例えば『倫理』も数学や物理、あるいは経済学と同様に、各思想家の思想・キーワードなどの厳密な定義・定式が存在します。教師はまずこれらをしっかり把握し、コンパクトにまとめ、生徒に分かり易く説明できなければなりません。この土台があってテーマ学習やディスカッションを取り入れたPBLなどのアクティブラーニングが機能します。それゆえ、現行の教科書の難解・不明箇所の解説、参考文献の紹介、教材研究の基礎を再確認し、さらにアクティブラーニング化する授業を設計する作業を行います。	高等学校の講師及び若年層の教職員、教職課程履修者／30名
8月3日(金) 13:00～14:30 15:00～16:30  受講料：無料	これからの小学校の学級経営と授業づくり(前半・後半)  講師：佐藤 佳彦 教職課程センター特任教授	2020年4月の新学習指導要領の全面実施が迫っています。教師には、これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、これからの時代に求められる資質・能力を子供に育てていくことが求められます。 本講座では、「授業は学級経営の基盤の上に成り立つ」という基本を踏まえ、子供一人一人の持ち味が発揮される学級経営の在り方や、社会科における「地域素材の教材化」を事例としてこれからの授業づくりを一緒に考えていきたいと思います。	小学校講師及び若年層の教職員／15名
8月7日(火) 13:00～14:30 15:00～16:30  受講料：無料	文学教材の授業に向けてー主体的・対話的活動からどう学習課題を設定するか(前半・後半)  講師：田村 嘉勝 子ども学科教授	講座では小学校国語、中学校国語教科書掲載の文学作品を取り上げます。学習者が楽しく授業に参加するためには方法的にどのような読みによる教材研究・教材化をすればいいのかをみんなで考えたいと思います。教材文を俗にいう解釈の相違としてとらえるべきなのか、あるいは作者の思想を求めるべきなのか(この時作者とは誰をさすのか)、読者とかテキスト、それとも思い切って教材文を構造的・立体的にとらえてみる、なんてできたら教材研究をされていて学習者の喜ぶ顔が思い浮かぶのではありませんか。また、学習課題は学習者による主体的・対話的活動によって決めるとはいうものの、実態は先生が決められているのではありませんか。まずは、先生方が教材文を楽しく読む必要があります。参加者全員で、それぞれ主体的・対話的活動をもとに学んでみませんか。	小学校・中学校国語科の若年層の教職員、教職課程履修者／30名